

1. 実況上の着目点

① 沿海州には、500hPa 5580～5760mのトラフがあって東進。対応する低気圧が千島近海を東北東進しており、前線が東北地方を通り朝鮮半島南部にのびている。低気圧や前線に向かって、下層暖湿気が流入しており、9時の秋田高層観測では、850hPa θ e348Kを観測。東北地方や北陸地方では約50mm/hの非常に激しい雨の所があり、雷も多数検知している。

② 西日本には、日本の南に張り出す高気圧縁辺を回る暖湿気が流入しており、太平洋側を中心に対流雲が発達し、20mm/hの強い雨の所があり、雷も検知している。

③ 強い台風第13号は、東シナ海を北西へ進んでいる。南西諸島や九州周辺ではしけの所があり、西～東日本の太平洋側ではうねりを伴い波が高い所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、16日は千島の東に進む。ここからのびる前線が東北地方を南下し、16日は東日本～日本海西部にはほとんど停滞する。前線近傍には850hPa θ e345K以上の下層暖湿気が流入しており、また1項②の日本の南に張り出す高気圧縁辺を回る下層暖湿気が流入する。東北地方は15日、東日本では16日にかけて、日中の気温上昇の影響も加わり、大気の状態が不安定となるため、16日にかけて、雷を伴い、激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。また、西日本や南西諸島でも、1項②の下層暖湿気の影響で16日にかけて大気の状態が不安定となる。落雷や突風、降ひょうに注意。前線近傍にあたる東北地方や北陸地方では、15日は大気の状態が非常に不安定となるため、竜巻などの激しい突風にも注意。

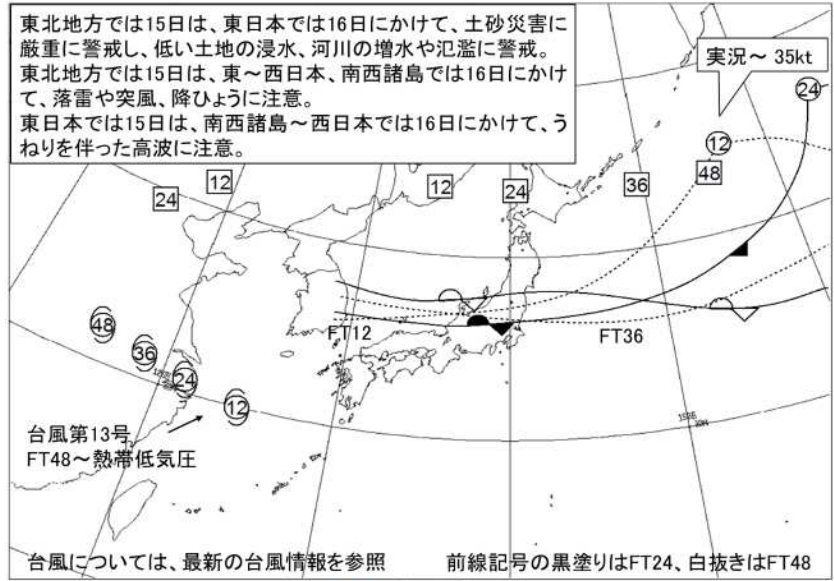
② 台風第13号は、16日朝には華中に進み、その後、17日朝までに熱帯低気圧に変わる見込み。南西諸島や西～東日本では台風の影響が残るため、15日は波やうねりの高い所ある。また、南西諸島や西日本では16日は、吹送距離の長いやや強い東よりの風の影響で波やうねりが高い。高波に注意。

③ 300hPa 9720m付近に-30℃以下の寒気を伴う上層寒冷低気圧が、16日に小笠原諸島、17日は南西諸島に接近する。小笠原諸島では16日、南西諸島では17日は大気の状態が不安定となるため、雷を伴い激しい雨の降る所がある。落雷や突風、短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ①雨量(18時から24時間)：関東甲信・四国100mm。②波浪(明日まで)：九州南部・奄美・九州北部4、沖縄・四国・近畿3m。③高潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本、南西諸島で注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図